



まちづくりの情熱みのる夏 -まちづくり大学院修了- Fruitful Summer of Urban Design -completion of MPS-

東大社会人向け大学院都市持続再生学コース(まちづくり大学院)のジュリーが7月28日に行われ、都市デザイン研究室所属の3名の修士が、めでたく修了されることになりました。

東京首都圏の都市景観美学と景観構造の研究
—東京首都圏を横断する鉄道ルートが生み出す沿線景観—[中央線+総武線の分析を通して]

まちづくり大学院4期 若松 久男
建築—都市—景観—風景—デザイン・・・とあれこれ考えている間に早2年が過ぎようとしています。まちづくり大学院では、多くのことを学び、実に多くの出会いに恵まれたと思います。特に同期の方々と始め、頻りに会い始めた方々とお互いとても親しみを持つようになりました。なんとも素晴らしいことだと思います。



▲4期生の皆さんと講堂前で(左から2人目が若松さん)

隅田川におけるまちづくりと連携した河川整備に関する研究
—河岸空間構成と沿川土地利用との関係に着目した一考—

まちづくり大学院3期 大川原 雄一郎
はじめまして。今回、社会人修士課程を修了することになりました大川原です。東京を代表する河川「隅田川」を対象として、河岸空間と土地利用の関係性に着目して河川整備のあり方を探りました。自分の仕事の対象でもある隅田川を、かつて「水の都」と呼ばれた東京の骨格として再生していくことが私の夢です！



▲演習で発表する大川原さん

街路空間整備と経済の相関にみる都市再生に関する研究
—丸の内仲通りにおける街路空間整備を中心に—

まちづくり大学院4期 江島 知義
人々が幸せに暮らすためにはデザインが大切さであり、都市空間、経済の原動力に良いデザインが必要であることを修士研究において論じました。良いデザインとは何か。引き続き研究と実践を通して考えていきます。大学院での研究を通して、研究も設計も創造の場であると感じました。



▲同期との思い出の一枚(中央が江島さん)



被災地、二度目の夏 The second summer after the Tsunami Disaster

昨年度から断続的に研究室の学生や学部生も関わってきた大槌。3月の記憶再生カレンダーは地元でも好評でしたが、今夏は吉里吉里集落を中心に、被災前のまちの様子を伺う記憶再生調査を行いました。

8月22日(水)から26日(日)にかけて岩手県大槌町で現地訪問を行い、3年生やM2の有志と一緒に、吉里吉里地区で震災前のまちの記憶を集めるヒアリング調査と祭りの調査を行いました。ヒアリングでは高齢者施設や仮設住宅の訪問に加え、空き店舗をお借りして「思い出サロン」を開催、次々と集まってくださった「お茶飲み仲間」のおばあちゃん方と地図や昔の写真を見ながら賑やかに話げができました。



▲旧商店を利用して開催した思い出サロン

25日・26日に開催された天照御祖神社の祭りでは、浜での大祓や町中を練り歩く神輿とそれを盛りたてる虎舞や神楽などの伝統芸能を見学でき、子供から大人まで一緒になって祭りを楽しむ地元の方々のパワーに圧倒されました。今後は調査内容を踏まえ、地元の方が何気なく集まったり漁業などの生業と結びついた利用のできるまちづくりについて提案をしていきたいと思っています。



▲船越湾に面した吉里吉里の砂浜でのお祓い

—大槌プロジェクト— -Field survey of Otsuchi PJ-

text_fukushi



▲賑やかな行列と沿道で楽しむ人々

好評連載

"まち大コーナー 第2弾！"

A Message from MPS student vol.2!

お仕事と研究という二足のわらじで活躍されるまち大の生徒のみなさん。長年の経験と、その中で培われた都市への思いを語って頂きます。

【異なる領域がにじみ合う「場所」を記述したい】

まちづくり大学院4期 渡邊 秀樹



私は 20 代の時に坂本一成に師事し、村田靖夫の下で住宅設計を 4 年間やりました。その後、東大の同級生 9 人が始めたテイクナイン計画設計研究所で地域計画を 5 年間担当して独立しました。独立後は、住宅のディテールを原寸で考えていた経験と地域の成り立ちを大きくとらえて改編する経験が基礎になり、都市

再生機構の郊外型住宅団地の景観計画をやりました。

今考えると、私の仕事は異なる分野をつなぐ役割が多いです。建築と都市、ミリ単位のスケールと都市の大きな構造を同時に理解しながら、異なる領域を「にじみ合わせる」にはどうしたらいいのかを考えてきました。

異なる領域がにじみ合う都市空間は、構造 (Structure)・物語 (Story)・スタイル (Style) によって構成されており、3 つの St- の構成が、街路 (Street) などの快適な「場所」を基礎づけているという仮説を立て、都市設計のツールとして記述したいと考えています。

異なる領域がにじみ合う上海市内の夜の路▶



▲異なる領域がにじみ合う上海市内の昼の路



プロジェクト報告



Takayama-project 高山プロジェクト

本年度の高山プロジェクトが本格始動。昨年度までの提案を具体化するべく、美しい夏の高山を訪れました。今年も高山 PJ に期待です！

M1 児玉 千絵

8 月 24 日 (金) ~ 26 日 (土) にかけて、今年度から参加した M1 が初めて長倉集落を訪問しました。昨年度策定した地域マネジメント計画に沿って選定された 4 つの事業について、実現に向けた具体的な企画資料を適宜説明するという形で役員会に参加させて頂いたほか、地域マネジメント計画を活用した新制度の立ち上げにむけて、高山市文化財課・建設課・地域振

興課の各課長が同席する会議を行うなど、今年度のメインとなる活動が着々と進められています。

さらに、地元若連中の方々が企画してくださった BBQ 大会での様々な世代の方々と交流や、念願の高鳥屋山登頂、長倉内の研修会館宿泊 & 栃尾温泉入浴など、初めてのことに尽くしの非常に充実した訪問となりました。



▲道なき道を抜け、高鳥屋山から長倉集落を一望



▲案内して下さった水上さんと清水さん



▲地元での役員会の様子

アトサキセブンプロジェクト

text_omori

静岡市の中心部、七間町はかつて多くの映画館が立地した場所ですが、今では衰退し、映画館の閉鎖後静岡市の上下水道庁舎が建つことになりました。建設が始まるまでの 1 年間、映画館オリオン座跡地を市民に開放し暫定利用する試みが【アトサキ7】プロジェクト。研究室 OB の今川俊一さん (静岡市都市計画課) も関わってらっしゃいます。詳しくはアトサキ7のブログをチェックしてください。

(<http://atosaki7.eshizuoka.jp/>)



▲コンテナハウスが活動中心



▲テラスで会議

Information

9月の予定

9月12日~14日	建築学会東海大会
9月12日~26日	公開空地調査(名古屋・札幌・仙台・福岡・北九州)
9月20日	研究室会議
9月28日	研究室会議

✦ 編集後記

大森 文彦

先日、友人達が立ち上げた独自ブランドのショップに行ってきました。六本木の街路灯に下げられている、宣伝用ののぼり「フラッグ」を再利用して作るバッグやケースのブランド名は『蟬 semi』。長く土の中で生活し、地上では一週間しか生きられない蟬から、短期間しか飾られないフラッグに再度生命を吹き込もう、という願いが込められているとか。フローからストックへという簡単そうで難しいテーマを、私も何とか修論に詰め込みたいなと感じた次第です。